

千秀だより

横浜市立千秀小学校

7月号



平成26年(2014). 7. 1

子どものもったワクワク、ドキドキを大切に

校長 市川 幸男

梅雨真っ盛りです。この時期、年々思いが強くなるのですが、歴史的な豪雨があったり、雹が山のように降ったりするなど、異常ともいえる気象現象が多くなっているように感じます。まっすぐに糸の線を引いて降る雨が、梅雨らしく感じます。そんな雨の中、いつものように大船からバスに乗り、車窓から学区の町を眺めていました。雨に煙る景色の中、赤や薄桃色、青色の大振りの花が目に入ってきます。この時期の代表的花である紫陽花が辻つじに目に映り、梅雨空の下、一服の清涼感を与えてくれました。千秀小学校に向かう子どもたちの目も楽しませてくれているのではと思います。同時に、なぜ同じ紫陽花なのにこんなにも色が違うのだろうかとも思いました。

先日休み時間のことですが、2年生の子どもたちが育てているキュウリやメロンに水やりをする子どもたちが、ツルが大きく伸びているのを見て、「あれっ、何?」「どうして、どうして!」「どうして、ツルが左巻きになるの」「みんなのもそうかな」「朝顔のツルも左巻きかな?」など、大きな声が耳に届きました。これらの言葉が表しているように、子どもは本来、知的好奇心、探求心が旺盛な存在だと思います。

この好奇心は、学校だけでなく、地域社会、家庭、自然、すべてが対象です。帰り道、まっすぐ歩けば早く家に着くのに、あちらこちらの花や石、あらゆる物に興味を奪われ、なかなかその歩を進めることができない姿は、まさにそのものだと思います。きっとそのときの子どもの頭の中は、私たち大人が、推理小説や映画を見て、本や映画などの世界に入り込んだ時と同じような状態ではないでしょうか。「ハテナ」という疑問を持って、課題を探求していくからこそ「なるほど、そうか」と実感を伴って理解できたり、感動したりできるのです。

一方、最近は早く答えが知りたいと結果ばかり気にする子ども達も、多くなっています。周りの大人が「早くできる方が、よいことなんだ」ということばかりを要求しすぎるからかもしれません。その結果、PCで検索し、答えを見つけそれで終わり。確かに知識は増えることではしょうが、なんと味気なく感じることでしょう。また、「紫陽花の色の違いは、土壌のPH(ペーハー)、酸性度に違いがあるからです。」「アサガオのツルの巻き方は、すべて左巻きです。」と事前に指導者が言ってしまったら感動すらありません。子ども達が「もしかしたら、右巻きのツルが発見できるかも知れない」「黄色い紫陽花はないのだろうか」といった、ワクワク・ドキドキしながら新しい出会いを求めて動き始めるような働きかけをすることが、私たちに求められているのではないかと思います。

さて、この梅雨が明けると、子どもたちの楽しみにしている夏休みを迎えることとなります。夏休みこそ、先の述べた好奇心から疑問をもち、その解決に向け自分の手で探求していく絶好の機会でもあります。全校の児童が、元気にそして好奇心いっぱい、そして成就感いっぱいの学校生活を送り、夏休みを迎えられるよう、今月も取り組んでいきたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひいたします。